

## 第4章 宮城県の生物多様性に関する将来像と基本方針

### 1 宮城県の目指すべき姿(将来像)

本戦略の計画期間(平成27年度から令和16年度までの20年間)内において目指す本県の姿(将来像)は「自然に寄り添い、自然と共に生きるふるさと宮城」としています。また、本県の生物多様性を代表するキーワードとして「山」、「平野」、「田んぼ」、「川」及び「海」の5つを抽出し、子ども達や将来世代に引き継ぐ県土のイメージを「美しい森・田んぼ・川・海がつながり、子どもの笑顔が輝くふるさと宮城」としました。

#### 令和16年度の県土の将来像

### 自然に寄り添い、自然と共に生きるふるさと宮城

—美しい森・田んぼ・川・海がつながり、子どもの笑顔が輝くふるさと宮城—

※将来像のイメージは、現在の生活の質を保ちながら、自然と共生していくことの大切さを十分理解した上で、身近な自然を守り、自然の恵みを上手に使うことを想定しています。

### 2 宮城県の生物多様性に関する基本方針

本章で掲げた将来像「自然に寄り添い、自然と共に生きるふるさと宮城」の実現に向けて私たちが共有したい考え方(基本方針)を「豊かな自然を守り育てる」、「豊かな自然の恵みを上手に使う」及び「豊かな自然を引き継ぐ」としています。

#### 3つの基本方針

##### (1) 豊かな自然を守り育てる

私たちの命と生活を支える、ふるさと宮城の自然を大切に育みます。

##### (2) 豊かな自然の恵みを上手に使う

ふるさと宮城の自然がもたらす様々な恵みに感謝し、自然の恵みを持続的に利用します。

##### (3) 豊かな自然を引き継ぐ

身近な自然や生きものの大切さや素晴らしさ、楽しさや、自然と共に生きることの意味を地域全体で共有し、将来世代に引き継ぎます。

上記の将来像と基本方針を踏まえて、目標年度の令和16年度における本県の生物多様性に関する将来像「自然に寄り添い、自然と共に生きるふるさと宮城—美しい森・田んぼ・川・海がつながり、子どもの笑顔が輝くふるさと宮城—」の達成状況のイメージを以下に示します。

# 宮城の目指すべき姿(将来像)のイメージ

## 県内全域

- 現在の生活の質を保ちながら、自然と共生していくことの大切さを十分理解し、将来世代へとつなげる持続可能な社会の形成が進んでいます。
- 多くの県民が、豊かな自然がもたらすおいしい水や空気、食べもの、潤いのある景色など、多様な恵みに支えられて、心豊かで持続可能な生活を送っていることを実感しています。

## 山

- 計画的な間伐や再造林の推進により、森林の多面的機能が維持・増進されています。
- 針広混交林や広葉樹林への誘導により、森林にすむイヌワシなどの生きものの生息・生育に適した多様な森林が維持されています。
- 環境に配慮した持続可能な林業によって生産された木材や林産物の地産地消が進んでいます。
- 森の恵みを持続可能な形で利用するための工夫や取組が、あらゆる場面で浸透し実践されています。
- 四季折々の変化に富んだ景観や自然を生かして、持続可能なエコツーリズムなどの環境教育プログラムが継続的に行われています。



## 川

- 多様な生きものが生息・生育する良好な水辺環境が維持され、水や植物・淡水性の魚介類などの自然の恵みを持続可能な形で利用するための工夫や取組が浸透し、実践されています。
- 環境学習や自然体験、レクリエーションなどの機会が増え、河川環境に負荷をかけない形で持続的に利活用するための仕組みが整っています。
- 水辺で遊ぶ体験などを通じて、川に愛着を持つ人が増え、川の環境保全活動が活発になっています。



- 県内の生物多様性について学び、体験し、知識や経験を共有する機会が増え、県民の本県の生物多様性に対する関心・理解が深まっています。
- 自然の恵みを生かしたエコツーリズムなどの取組を通じて、持続可能で付加価値の高い農林水産業や観光などのサービスや商品に対する県内外からの需要が高まっています。
- 地球環境の変化による自然災害などに対し、ソフト・ハード両面からの対応策が整備されています。



### 平野

- 生きものと共生する農法に取り組む農家・水田が増え、水田やその周辺では、メダカやトンボなど、様々な生きものが見られます。
- ふゆみずたんぼなどにより、ガン類やカモ類などの渡り鳥の越冬に適した環境が増え、伊豆沼などにおける過密な越冬状態が目に見えて解消されています。
- 環境に配慮した安心・安全な農法で生産された環境保全米や伝統野菜などの食材の地産地消が進んでいます。
- ラムサール条約湿地の伊豆沼・内沼、蕪栗沼・周辺水田、化女沼やその周辺のため池や水路、草地などを活用した各種の環境教育プログラムが継続的に行われています。

### 海

- 東北地方太平洋沖地震での津波によって大きな被害を受けた沿岸や藻場に生きものが戻り、多様性に富んだ環境が再生しています。
- 蒲生干潟、井土浦、鳥の海等の干潟・砂浜が健全な状態で保全され、多くの水鳥が見られます。
- 海の生態系に配慮した持続可能な漁業により生産された海産物などの地場食材の地産地消が進んでいます。